



《現状把握》

国語は「読むこと」「話す・聞く能力」の正答率が高い。「書くこと」はやや低く、記述式の無回答率は平均の2倍近い。数学は「グラフ」「関数」の正答率が低く、「連立二次方程式」が苦手である。全体的に無回答率が平均の2倍近い。理科は、「自然現象についての知識・理解」が低く、全体的に無回答率が高い。「科学的な思考・表現」は平均をやや下回っている。理科に苦手意識をもっている生徒がやや多い。発表活動や聞くことは得意にしている。

《授業改善のポイント》

国語は適切な語句を用いて効果的に伝える文章を書く力を身につけさせる。資料を読み取り、自分の考えを具体的に書くために、お互いの文章について評論する活動を行う。
 数学は計算力を身につけさせるために、方程式の小テストを毎時間実施する。図形の証明や比例の関数を式やグラフに表わす力を育成するために、少人数での教え合い学習を取り入れ、様々な観点があることに気付かせる。
 理科は電気分野は目に見えない現象なので、図を用いて視覚に訴えて現象の復習を行い、計算方法を反復する。日常の現象や実験の結果から考察を書く方法を掲示して、練習させ、巡回指導で細やかな指導を行う。

《家庭・地域への働きかけ》

朝の生活（起床・朝食）で、ゆとりを持てるように保護者と連携していく。家庭学習の習慣が定着していない。家庭で取り組む課題（基本・応用）を計画的に実施し、学習習慣を身につける方策を検討する。学校の方針を地域などに発信する。

《チャートの特徴》

学力は、国語Bは昨年度より高いが、他は昨年度を下回り、特に数学Bは大幅に下回った。数学は粘り強く問題を解く姿勢に甘さがある。学習への関心等では「勉強が好き」国語と数学は平均値をやや上回っている。規範意識や自尊感情での意識は高く、失敗を恐れずに挑戦する姿勢が見える。TVやメールの長時間の利用傾向が目立つ。「将来の目標」もしっかりと持っているが、家庭学習の時間が少ない。また、学校行事への家族の参加も多いが、日常的な会話はやや少ない傾向である。